

2025 年度（令和 7 年度） 事業計画書

当会の公益目的事業は、「観賞用花木等の収集保存、育種、栽培、利用の研究、情報の収集と提供及び普及啓蒙等の事業」です。

以前は桜苗木の大量配布が中心でしたが、近年は、桜の名所づくりのノウハウや保全・管理方法の普及啓発、花のまちづくりの支援といった、質の充実に力を注いでいます。

2025 年度（令和 7 年度）も、こうした活動の質的充実にさらに推進していきます。

公益目的事業の各項目における主な計画は以下のとおりです。

1. 桜苗木の生産・配布による桜の名所づくりや桜苗木の受託生産と育苗、花や緑を活かした花のまちづくりなどの推進（国土緑化）

1) 桜の名所づくり

① 桜苗木の生産と配布

当会は、病気に強く育てやすい品種の苗木生産と提供を通じて、桜の名所づくりを支援しており、これまでに累計 250 万本以上を出荷しています。単に苗木を提供するだけでなく、植栽地の気候・土壌や住民のニーズに合った品種の選定、植栽方法や管理方法のアドバイス、植栽後のフォローなどを確実に実施しています。ピーク時に比べ出荷本数は減少していますが、引き続き自治体や地域住民と一体となって、桜の名所づくりを支援していきます。

② さくらコンシェルジュ

新しい桜の名所をつくりたい、自分達が植栽した桜を健全に育て新しい名所にしたい、既存の桜の名所を守り後世に伝えたい、といった地域住民や団体等の要望に積極的に応えるため、当会研究員を現地へ派遣しています。2025 年度も積極的・計画的に現地へ出向き、住民や団体等と共に活動計画を策定して、技術的な支援や指導を行うとともに、住民の桜によるまちづくりの合意形成にも協力していきます。

③ 桜を通じた災害復興支援

災害復興支援として、これまでに 7,000 本以上の桜の苗木を無償で提供しており、今後も継続していきます。当初は東日本大震災の被災地における、津波被害を受けた桜の後継樹育成などが中心でしたが、2019 年度以降は、支援対象を自然

災害全般に拡大し、被災地向けに桜苗木、花苗および堆肥の無償提供、品種の選定や復興計画の進捗に合わせた植樹、植栽後の剪定・保全管理などの技術指導を行っています。

2) 桜苗木の受託生産と育苗

地元で愛されている桜の苗木増殖や、伐採せざるを得ない桜の保存を目的に、接木による苗木生産を通じて後継樹の育成を支援する事業を、自治体や団体、個人などから受託して行っています。これからも、住民が親しみを感じている桜の苗木を育て、植栽して後世に残すことで、地域住民に愛される桜の名所づくり行っています。

3) 花のまちづくり

花のまちづくりは、単に花壇を作ったり街路を花で飾ったりするにとどまらず、「花が持つ力」を活かして、花や緑でよりよい生活環境を作るとともに、世代を超えて人と人が関わり合い、コミュニティを発展させ、いきいきとしたまちにしていける活動です。さらに、地域の風景や環境に調和した花を演出することで、見る人の共感が得られ、個性と持続性のある活動となります。当会は、自治体や公共団体などの要請に基づき、各地で花のまちづくりの支援を行っており、2025 年度も引き続き、山口県上関町や静岡県熱海市において実施する予定です。

上関町では、「花咲く海の町・上関」推進委託事業として、河津桜と水仙による公園の整備、「花づくりパートナー制度」の支援や、保育園児を対象にした「花育」活動などを、継続して実施していきます。

熱海市では、「熱海花のまちづくり」計画関連事業に引き続き参画し、公共花壇での植栽指導や、糸川遊歩道の改修計画策定などを実施していきます。

2. 桜の名所づくりや花のまちづくりに関する講師派遣、講座・シンポジウム等の開催（普及啓発）

1) 講師派遣

地方自治体等が開催する桜の講習会や勉強会に、当会研究員を講師として派遣し、施肥や剪定・整枝、病気や害虫への対処方法などを指導しています。また、花のまちづくりや花壇づくりの講習会や勉強会にも当会研究員を派遣し、花のまちづくりの一層の普及啓発を図っています。Web も積極的に活用し、2025 年度も各地で活動を行っていく予定です。

2) 桜の保全・管理に関する普及啓発

① サクラ保全管理講座の開催

学識経験者・樹木医等専門家による、樹勢回復や病害虫対策等の技術・科学的分野、歴史・文化等の分野、桜守等住民活動の分野、以上3つの分野を柱として、「サクラ保全管理講座」を毎年開催しています。2024年度は11月に東京で開催し、2025年度は大阪で開催します。樹木医や各地で桜の保全活動を行っている住民団体の方々、桜愛好家の皆さまなど、Webでの参加も含めて、毎回100名以上の方に聴講いただいています。

② 全国さくらシンポジウムの開催

桜の維持保全活動推進、桜に対する住民意識の喚起、NPOやボランティアのモラルアップ等を目的に、1982年から毎年、全国の桜名所を有する自治体と共同で「全国さくらシンポジウム」を開催しています。2025年度は4月4日・5日の両日、岐阜県恵那市において「未来につなぐ恵那のさくら」をテーマに開催します。

初日は、同市に縁のある桜研究の第一人者、三好学に関する記念講演（講演者：元岐阜大学准教授 石田仁氏）、パネルディスカッションなどを、2日目は、恵那峡湖畔の約200本の桜並木や阿木川公園桜並木など同市内の桜名所の見学会を実施します。

③ 学び舎の桜プロジェクト

学校にある桜に触れる原体験を通して、桜への興味や関心を深めてもらい、将来、桜保全や樹勢回復等桜を守る活動に携わってもらえるような人材を育成するため、小学校児童や中学・高校生を対象とした活動を行っています。PTAや地域住民が参加するケースもあり、桜の名所づくりアドバイザーの協力も得ながら、接木や桜授業等、地域特性に応じた活動内容を心掛けて、支援を継続します。

3) 花のまちづくり運動の普及啓発

① 全国花のまちづくりコンクールの実施

1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の基本理念“自然と人間との共生”を継承・発展させる事業として、1991年から毎年「全国花のまちづくりコンクール」を実施しています。花の社会性（花が社会に及ぼすプラスの影響）の向上を目指し、優れた花のまちづくり活動（地域の環境づくり・コミュニティ形成に貢献する活動）を表彰しています。（公財）国際花と緑の博覧会記念協会、（公財）

都市緑化機構、(一財)日本花普及センターならびに当会で構成される花のまちづくりコンクール推進協議会が主催し、当会が事務局として運営しています。なお、本年4月より、(一財)日本花普及センターに代わり、花き業界8団体で組織される全国花みどり協会が当協議会に加わる予定です。

2025年度のコンクールは、例年どおり4月に募集を開始し、7月下旬に第1次審査、8月に現地審査、9月に第2次(最終)審査、10月に表彰式という日程で進めます。引き続きコンクールの質的充実を図りつつ、効率的な運営に努めます。また、近年の応募者減少対策として、都道府県など行政への働きかけやマスコミへの情報提供などを積極的に行っていきます。

② 全国花のまちづくり地方大会の開催

全国花のまちづくりコンクールの関連イベントとして、花のまちづくりの普及啓発を目的に、花のまちづくりコンクール推進協議会が自治体と共同で毎年開催する「全国花のまちづくり地方大会」に、事務局として運営に参画しています。

コンクール大賞受賞者による優秀事例発表、地元団体の活動事例発表、著名人の記念講演やパネルディスカッション等を通じ、地元住民の花のまちづくり活動の推進やレベルアップ等を図ることが目的です。

2025年度は、5月31日・6月1日の両日、静岡県牧之原市において「花と共に人と共に 牧之原市」を大会テーマとして開催します。初日は、第34回(2024年)全国花のまちづくりコンクールで農林水産大臣賞を受賞した特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワークの事例発表の他、地元で花のまちづくりに取り組まれている方々によるトークディスカッション、著名な園芸研究家と園芸デザイナーによるスペシャルトークショーなどを、2日目は、同市内の花の名所を巡る現地見学会を、それぞれ予定しています。

③ こまつの杜での花育

2015年から、石川県小松市にある「こまつの杜」で行われている花育活動に、当会研究員が講師として参加しています。子ども達が自ら「育てる楽しさ、花咲くよろこび」を感じられるよう、「NPO法人みどりのこまつスクスク会」のボランティアスタッフ、「わくわくコマツ館」の職員、小松市民の方々などと日頃から連携し、活動を継続しています。従来の活動に加え、全国花のまちづくり小松大会の大会記念シンボルとしてこまつの杜に新設した「ナチュラルガーデン」での、種とりや花植えなど四季の変化を学ぶ取り組みや、花育活動の新たな活動地として小松駅東口に整備された「おもてなし花壇」での、園児やそのご家族の皆様との植込作業等の活動を行っていきます。

4) 屋上緑化

コマツビルの建て替えに伴い、屋上庭園のシンボルでもあった八重紅枝垂をはじめとする植物の一部は、可能な限り当会結城農場に仮移植し、2026 年末に完成予定の新コマツビルへの復植を目指して、維持管理を行っています。結城農場では、コマツ社員と協力し、八重紅枝垂の後継樹育成のための接木なども行っています。仮移植した植物の状態は、適宜当会ホームページや Instagram、X（旧 Twitter）で情報発信しています。

3. 桜の品種特性や樹勢回復についての研究、桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導（試験研究）

1) 自主研究

① 桜の品種特性に関する調査研究

当会桜見本園で収集保存している桜の花の形状等品種特性について、画像のデータ化やホームページ等での情報公開を進め、多様性のある桜に対する世間一般の認識向上に、引き続き努めていきます。

② 桜の樹勢回復に関する調査研究

桜見本園の桜を利用した樹勢回復の試験研究を継続し、全国各地の桜の保全に対応できるよう、引き続き技術力向上に努めていきます。

2) 受託研究

① 桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導

桜の名所づくりや樹勢回復に関する事業を自治体等から受託して調査研究を行い、剪定、病虫害駆除、施肥など、樹勢回復の提言と指導を引き続き行っています。

（受託研究の事例）

- ・ 幸手市（埼玉県）……権現堂桜堤の桜樹勢回復
- ・ 須坂市（長野県）……臥竜公園の桜樹勢回復
- ・ 富士吉田市（山梨県）……新倉山浅間公園の桜樹勢回復
- ・ 藤岡市（群馬県）……桜山公園の桜樹勢回復

以上